

要素訓練結果報告の概要

1. 訓練の目的

本訓練は、予め定められた原子力災害時における応急対策または復旧対策等に関する手順の検証および習熟を行うとともに、体制、資機材の取扱いおよびその実効性について改善を図るものである。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

平成25年8月2日（金）～平成25年11月23日（土）

（訓練ごとの実施日については、「添付資料」のとおり。）

(2) 対象施設

東通原子力発電所

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 原子力災害想定概要

(1) モニタリング訓練

放射性物質の放出により敷地内の放射線および空気中の放射能濃度が上昇した状態を想定。

(2) 電源機能等喪失時対応訓練

全交流電源喪失、原子炉除熱機能喪失および使用済燃料プール除熱機能喪失の状態を想定。

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 防災訓練の内容

- (1) モニタリング訓練
- (2) 電源機能等喪失時対応訓練

7. 訓練結果の概要（添付資料参照）

(1) モニタリング訓練

- a. モニタリングポスト，ダストモニタおよび放水口モニタ等のデータ監視，記録作成について実働訓練を実施。
- b. 緊急時環境影響評価システムを用いた最大空間放射線量率出現予測地点，大気中放射性物質最大濃度出現地点における線量評価について実働訓練を実施。
- c. モニタリングカーおよび可搬型モニタリングポストを用いた空気吸収線量率の測定，モニタリングカーによる試料採取・測定について実働訓練を実施。

(2) 電源機能等喪失時対応訓練

- a. 全交流電源喪失，原子炉除熱機能喪失および使用済燃料プール除熱機能喪失を踏まえた緊急安全対策の各対策について個別に緊急時対策要員による実働訓練を実施。
- b. 訓練にあたり，本設機器へ直接影響が生じる手順は模擬とし，現場での動作確認および机上での手順確認を実施。

8. 訓練の評価

各要素訓練について定められた手順どおりに訓練が実施されていることを確認できた。
訓練毎の評価結果は，「添付資料」のとおり。

9. 今後に向けた改善点

各要素訓練における当該期間中の改善点および今後に向けた改善点は，「添付資料」のとおり。

以 上

〈添付資料〉要素訓練の概要

要素訓練の概要

1. モニタリング訓練（訓練実施日：平成25年9月27日，参加人数：13名）

概要	実施体制 (①実施責任者，②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後に向けた改善点
放射線管理測定訓練 連続モニタ監視，予測線量評価，空気 吸収線量率測定の実働訓練を実施	①放射線管理課長 ②放射線管理課員または技術課員	良	採取試料の種類および採取ポイント等の見直しを実施	—

2. 電源機能等喪失時対応訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で計62回実施），参加人数：延べ472名）

概要	実施体制 (①実施責任者，②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後に向けた改善点
緊急時の電源確保に係る訓練 高圧応急用発電機車および大容量電源 装置等による電源確保の手順の実働訓 練や机上訓練等を実施	①電気必修課長または発電管理課長 ②電気必修課員，技術課員，放射線 管理課員，品質保証室員，発電管 理課員または協力会社作業員	良	大容量電源装置の接続作業の省力 化のため，常時接続化工事を実施	—
緊急時の最終的な除熱機能の確保に係 る訓練 消防車による原子炉への代替注水等の 実働訓練やライン構成等の一連の動作 確認を現場にて実施	①機械必修課長または発電管理課長 ②機械必修課員，発電管理課員，土 木建築課員または協力会社作業員	良	—	ホース敷設作業の省力化のため， 水源確保ルートの一部について， ホースの常設化工事を実施中
シビアアクシデント対策に係る訓練 原子炉建屋のベント開放操作に係る動 作確認やホイールローダによる模擬が れきを用いた実働訓練等を実施	①土木建築課長，発電管理課長 または放射線管理課長 ②土木建築課員，発電管理課員，放 射線管理課員または協力会社作業 員	良	高線量下作業を踏まえた緊急時の 放射線管理について，手順書を制 定	—